保育おおさか

平成21年12月1日　第412号
大阪府社会福祉協議会・保育部会
（大阪府保育協議会）
☎ 06−6762−9001　Fax 06−6768−2426

空間の狭さが子どものストレスを生み、保育環境も劣化の恐れ
―最低基準の緩和に対して改めてアピール！

「保育おおさか」先月号（11月号）で、「地方分権改革推進委員会の第3次勧告」に対し、設置基準の自治体移譲に懸念を表明する全国保育協議会などのアピールをお伝えしました。引き続き、その後の厚生労働省の対応や保育関係の動きを以下にまとめました。

地域格差広げる設置基準の自治体移譲―全国保育協議会が意見書

厚労省は11月4日、地方分権改革推進委員会第3次勧告に対する対応方針として、「施設等基準については、すべて条例に委任した上で、『人員配置基準』『居室面積基準』『人権に直結する運営基準』に限り『従うべき基準』とする」ことを明らかにしました。そのうえで、「東京等に限り、待機児童解消までに一時的措置として『居室面積基準』のみ『標準』とする」としました。

この対応方針を受け、全国保育協議会は、地域格差を広げ、保育に必要な環境が崩れる恐れがあるとして、11月5日付で意見書を取りまとめ、翌6日には鳩山首相、平野官房長官はじめ厚労省、総務省、内閣府（少子化担当）の政務三役に提出しました。

こうした状況の中で同月12日、「第3次勧告」に関する内閣府と厚労省の大臣政務官折衝が行われましたが、内閣府からは「人員配置は合理的な理由がある地域だけ、自治体が決められるように。他は面積を含め（人権に直結する基準・保育指針、調理室など）すべて委任すること」という回答があり、厚労省の対応方針とは異なる結果となりました。

最低基準の緩和については年内をメドに法改正が進められています。

現場の実情に即し慎重な配慮を―民主党議員と意見交換会

このような動きに対し保育部会では、同月18日に開かれた「大阪府保育士会50周年記念講演」の冒頭で参加者に緊急アピール、最低基準の規制緩和に向けた政府の動向、付随する問題点などが森田信司副部会長から報告されました。

報告の中で、「最低基準が緩和されると、現在の最低基準よりも子ども一人当たりに対する平米数が狭くなる恐れがある。空間の狭さが子どもたちにとってストレスとなり、噛みつきの増加など保育環境に望ましくない状況が懸念される」と指摘。また、「園児の増加により、保育士数も現在以上に必要となれば、空間の確保はさらに限られた広さになると思われる」と「最低基準の堅持」を強調されました。

また、同月22日には民主党大阪府総連合会と大阪府社会福祉協議会施設正副部会長会議の意見交換会が行われました。

この意見交換会では、各施設種別からの要望が出されましたが、社会福祉施設全体としては、国が定める「福祉施設の最低基準の堅持」、保育関係としては行政刷新会議の中で事業仕分けの対象となった事業（「保育所運営費負担金」など＝2面に関連記事）について必要な予算の確保を訴えました。

保育部会代表として出席した菊池繁信副部会長は、保育分野の現状も含め「保育現場や社会福祉施設全体における現場の実情に即して、最低基準の緩和については慎重に配慮していただきたい。万が一、地方へ移譲されるのであれば、地方が責任をもって取り組めるよう財源の確保について示すべき」と主張されました。

クリスマスの季節―サンタクロースの出番がやってきました。私がくるまでは、理事長がサンタ役でしたが交代しました。また、男性の園長先生がおられる近くの園とは、交替でサンタ役を演じています。

体形が似合うのか、姉妹園や子育て支援事業で依頼されるケースも増えました。園の関係者がこの役をやると園児に判ってしまうので、このように他園のクリスマス会へ出張しています。案の定、園長とサンタが並んで立つ時の園児の驚きは、おかしさを誘います。

しかし、こんなことも考えます。今のように「本当にサンタはいるんだ」と園児に夢をもってもらうのが良いと私は思うのですが、いや、そうではなくて「あれは園長先生だ」という記憶を長くもってもらう、その方が良いという意見もあるからです。

驚きとともに、いろんな経験を与えたいと思いながら、悩めるサンタは今年も飛び回ります。

（編集委員J・F）

保育の仕組みは子どもの健やかな育ちの支援が基本

―第53回全国保育研究大会

第53回全国保育研究大会が11月11日（水）～13日（金）の3日間、愛媛県松山市のひめぎんホールをメーン会場に、全国から約1,700人の保育関係者が参加し開催されました。

行政説明

保育界から意見発信し、現場を支えてほしい

今里　譲氏

今里譲氏

初日は、厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課長の今里譲氏の行政説明が行われました。

民主党のマニフェストでは子ども手当てがクローズアップされていますが、実は「質の高い保育」もあげられていることに触れたうえ、保育需要の飛躍的増大は①共働き世帯の増加②大きな潜在需要③地域の保育機能の低下――などが要因と説明。

今後の保育制度の姿（新たな保育の仕組み）に関する基本的考え方は、すべての子どもの健やかな育ちの支援が基本であり、「質」を確保された「量」の拡充が必要。中期プログラムを踏まえた財源確保とともに必要な改革を行うべき。子どもの健やかな育成は「未来への投資」として国が責任をもって取り組むべきものと述べられ、今後、保育の提供の仕組みや費用設定の部分についても話しあいが進められると説明されました。

今里氏はさらに、現在進められている「新待機児童ゼロ作戦」の目標・具体的施策について、10年後の目標として〈3歳未満児〉の提供割合を20％から38％に見直し中であることを明らかにされ、政権交代した状況下で、保育関係者が様々な機会に意見を発信し、今後も子どもの育ちのために保育現場を支えていただきたいと結ばれました。

大会の様子

基調報告

「最低基準」をアピールし理解を得よう

小川益丸氏

基調報告では、全国保育協議会の小川益丸会長が、すべての人が子どもを産み育てられる環境作り、システム作りの重要性と、保育士一人ひとりが社会に認められる研修制度の確立や待機児童解消のための環境整備などには財源の確保が必要なことなどを報告。

また、地方分権の流れの中で、10月に関係大臣への申し出を実施し、最低基準の必要性をマスコミで大きく取りあげられた経緯などを述べたうえで、一人ひとりの保育所職員が制度の問題について、利用者や地域の方への理解を得るため、「最低基準」について声をあげ、アピールすることが重要であると訴えられました。

記念講演

「子どもこそ真の宝物」と訴える

藤岡　弘氏

藤岡弘氏

今回の保育研究大会の記念講演には、「仮面ライダー」でおなじみの俳優で武道家の藤岡弘氏が招かれ、「子どもこそ真の価値ある宝物」と題して講演されました。

藤岡氏はNPO法人ボランティア団体の理事も務められ、世界数十カ国の紛争地域や、難民キャンプで救援活動を展開され、その貴重な体験をふまえて「子どもが宝」であることを訴えかけられました。

コソボの難民キャンプで、銃弾に倒れた父母兄弟の下から這い上がり、今、現在、生きている子どもを「奇跡の子」と呼ばれていること、「命よりも重いものは愛である」などのたいへん重みのある内容でした。

また、国が滅びる原因の一つは、家庭の乱れであり、家庭教育こそが重要と力強く訴えかけられ、深い思いが伝わる講演でした。

（編集委員M・K）

延長保育・運営費負担金　事業仕分けの論点と結果

11月16日、17の両日行われた行政刷新会議の第2ワーキンググループで、事業仕分け項目に「延長保育事業」と「保育所運営費負担金」について取り上げられました。各項目の論点と評価結果は次の通り。

延長保育事業

論点　延長保育事業については、仕事を持つ保護者向けサービスであることから、休日・夜間保育事業、一時保育事業など他のサービスと同様に、事業主拠出金で実施すべき。

結果　延長保育事業は必要だという認識の上で見直しの方向。本事業は特別会計により実施。制度的な過渡期にあるため、抜本的な保育のあり方、その中でも負担のあり方について政務三役で議論が必要。

保育所運営費負担金

論点　保育サービスの拡充や待機児童の解消を図っていくためにも、負担能力に応じた適正な利用者負担として徴収する必要がある。

結果　見直しの方向。保育料徴収基準額について、同基準額は平成10年から使われており、第7階層より上の階層を設け、さらに細かくすることを検討。

保育園をたずねて 394

のばたけ保育園の園児たち

豊中市　のばたけ保育園

「英語で遊ぶ」他文化共生保育に取り組む　友だちと心合わせるミュージックケア

のばたけ保育園は豊中市の北部、千里川に沿った住宅街にあります。昭和55年に創設、民営化で平成19年から社会福祉法人しらゆり会によって運営されています。

定員は１４０名。自慢は、のびのび遊べる広い園庭はもちろん、種や苗から野菜を作る畑があることです。

その野菜を料理し、みんなで食べます。食育には年間を通して取り組まれています。

他文化共生保育にも注力されています。園児には外国人を両親にもつ子女もいます。このため、「英語で遊ぼう」などの外国語のカリキュラムを取り入れたり、人権教育にも積極的です。

吉田純彦園長先生は、仲間の中で自己主張ができ、相手の思いも受け入れられる思いやりのある心を育てることを目標とされています。

地域や文化に興味をもち、正しい認識と知識を養うこと、それが豊かな感性を持つ子どもに育てる。生活や遊びを通して怒り、悲しみ、喜び、驚き、美しさなどを感じることで、健やかで仲間を大切にする生き生きとした子どもの育成を念願されています。

職員のなかには音楽、ミュージックケア（ＭＣ）の経験のある保育士がおられ、実際の保育に役立てられています。ミュージックケアは、誰でもどこでもいつでもできる音楽療法。音楽に合わせ一人ひとりの発達を促したり、気持ちを発散させたり、友だちと気持ちを合わせる心地よさを体得していきます。異年齢交流・異世代交流・地域交流などの機会にも一緒に楽しんでいるそうです。

楽しい遊びを通して、お互いの気持ちをコントロールできるようになったり、友だちと一緒に遊ぶって楽しいなあ、と思えるような保育を目指されているようです。

（編集委員　Ｍ・Ｈ）

守口市　土居ひまわり保育園

乳児主体で一時・休日保育や子育て支援も　遊戯室を確保、地域の親子も活用

土居ひまわり保育園は守口市で設立８年を迎えられた公立民営化園です。以前に紹介したことがある四條畷市の「田原台ひまわり保育園」の姉妹園で、設立は早く「お姉さん」にあたります。

あっ、魚いっぱい！

定員は45名。２ヵ月から２歳児までを受け入れています。規模は小さいですが、一時保育事業・休日保育事業・子育て支援センター事業も行われています。

休日保育は当初、ほとんど利用者がなかったようですが、近くに大きな商店街があるため、徐々に増え、日曜日に働いている理容師さんなど定期の方を含めて現在、４～５人の利用者がいます。

乳児主体の保育園のため、園舎・園庭は決して広くはありません。しかも、保育士配置基準もあって職員数は多いので、手狭に感じられます。

しかし、そんな中で創意工夫を生かした「園児たちへの遊びの空間」は確保されていました。

その一つは、職員休憩室を遊戯室に改造されたこと。絵本や遊具を備え、地域の親子や園児のために活用されています。

また、周辺は住宅や商店街で「自然と触れ合う機会」が少ない土地柄ですが、園長先生の思いも込めて、遊戯室前の廊下に、観葉植物や元気に泳ぐ魚の入った大きな水槽が置かれています。幼い子どもたちが水槽を覗き込んでいる姿が目に浮かびます。

職員室で取材中、保育士の方が４人ほど、制服のベストを汗びっしょりにして入ってこられました。更衣室は職員室に設けられており、皆さん、目の前を通って行かれました。

園長先生からお聞きしたのですが、京阪電車が通る高架の周辺を、職員が交替で、毎日掃除をしているとのことでした。初めは職員だけでしたが、今では地域の方も参加してくださるようになったそうです。

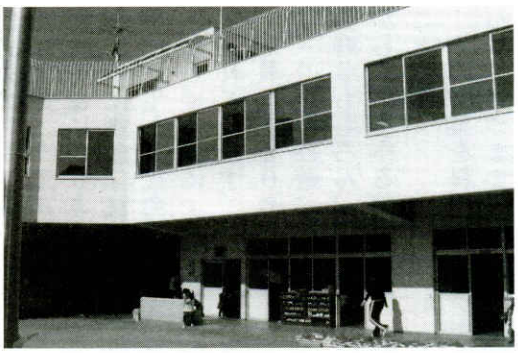
心温まる地域との交流を築いておられ、地域の中で、なくてはならない存在になっているようです。

（編集委員Ｊ・Ｆ）

保育園をたずねて 395

東大阪市　累徳学園

歴史が古く、親・子・孫3代にわたる利用も
年中行事に「はなまつり」や「地蔵祭り」



木造から建て替えられた園舎

「いつもあかるく　いつもただしく　いつも仲良く」を目標に、保育に取り組まれています。

0歳から5歳までの90人定員で、6クラスあります。そのクラスは松組や菊組など昔ながらの名前で、どこか懐かしさを感じました。

年中行事には仏教的な要素も多く、「はなまつり」や「地蔵祭り」などが行われるそうです。

明治の末頃、現在の大阪市天王寺区に累徳文殊園を開設されたのが累徳学園の始まりだそうです。

昭和16年から財団法人として運営されていましたが、同27年に社会福祉法人に組織変更されました。

戦後まもなく、現在の場所に移り、昭和48年には木造だった園舎が鉄筋コンクリートに建て替えられ、2階建て園舎として現在に至っています。

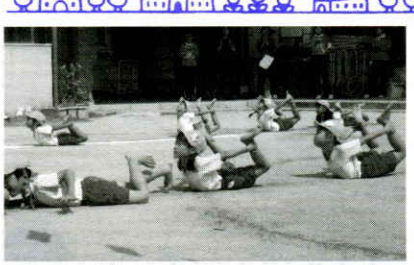
古い歴史をもつ累徳学園では、保護者の中に卒園児が多いのも当然でしょう。その世代は現園児のおじいちゃん、おばあちゃんから子、孫と親子三代にわたって利用している園児もいます。

子どもたちは、のびのびと過ごしている様子が印象的でした。

（編集委員　Y・N）

累徳学園は東大阪市の西部、近鉄奈良線河内小阪駅から南側へ少し歩いたところにあります。電車を降りると商店街があり、近隣には司馬遼太郎記念館があります。2月にはボランティアの方々が、司馬さんがお好きだった「菜の花」を町中に飾られ、とてもきれいだそうです。

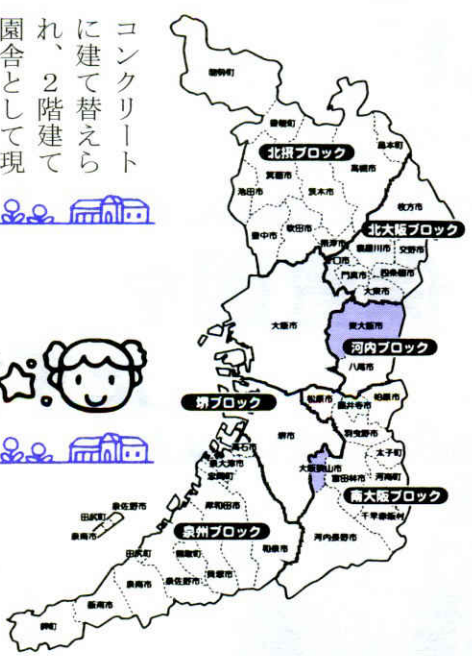
累徳学園は歴代の理事長、園長先生がお坊さんで、園内には仏様や地蔵様が祀られています。



園庭で身体を動かすこども

大阪狭山市　ルンビニ保育園

特色の縦割り保育で大家族の兄弟の雰囲気
挑戦意欲を育てる体力づくりや耐寒遠足



平成18年4月に、大阪狭山市の公立幼稚園跡に開園したルンビニ保育園。ルンビニ（ネパール南部）は釈迦生誕の地とされ、仏教の八大聖地の一つだそうです。

近隣には田畑も多く残り、隣が公立小学校という恵まれた環境で、子どもたちは毎日、園庭を走り回っています。定員60名。毎日行われる「リズムあそび」と、3・4・5歳児の異年齢縦割り保育が特色です。

リズムあそびでは、運動量の確保と四肢の発達を促します。縦割り保育では各年齢5名程度、1クラス15人ほどで3クラスを組織。年長児は年少児の世話をし、年少児は年長児に対して憧れを持ちながら、近い将来への見通しを育てる生活をすることができます。クラスは大家族の兄弟のような雰囲気です。

屋外で存分に身体を動かし、十分に遊ぶことができるように、園庭の遊具類は最小限とされていますが、子どもたちは徒競争や竹馬をすることが大好きです。

毎年秋の運動会は日頃の「体力づくり」や「やるぞ！という意欲」に支えられ、取り組みも一所懸命。徒競争やサーキット、クラス対抗リレーなどでは職員、保護者が一緒になって感動の涙を流すほどの盛り上がりだそうです。冬季には4・5歳児が「耐寒遠足」で山登り。全員が頂上まで自力で登ります。

保育目標は「挑戦する意欲・思いやりの心・丈夫な身体を育む保育」―望ましい成長を遂げ、自立した人間に育つための基礎であり、太く大きな幹を支える大切な根っこを育てるという意味がこめられています。

「様々な要因で、子どもたちの健全な成長に欠かせない経験や環境を、家庭も社会も手配できていないというのが、子どもたちを取り巻く現状である」と園長先生は認識されています。

「どの子も育つ」「ひとりひとりの親の心でるんびにの子　わたしの子」を合言葉に、日々保育に取り組まれています。

（編集委員N・M）

保育のまど ㊵

南海愛児園
―高石市

シリーズ 園児の体力づくり

全クラスで乾布摩擦・薄着の実行も
―職員間で話し合い年間目標立てる

南海愛児園は高石市の南よりに立地し、南海福祉専門学校と併設されています。周りに交通量の多い道路もなく静かな環境に恵まれているうえ、運動会のできる広い園庭があり、いつでも専門学校の中庭に散歩に出かけることもできます。

保育方針には「心身ともに健康な子ども」を掲げ、丈夫な身体をつくるために運動会後から春先まで、0歳児から5歳児の全クラスで乾布摩擦を実施しています。

手ぬぐいを使って乾布摩擦に挑戦！

乾布摩擦は皮膚が刺激されて皮温調節機能が高まり、血のめぐりがよくなるうえ、全身を冷たい空気にさらすことで、自律神経の働きを高めるという効果があります。

0・1歳児は軍手（滑り止めのゴム付きでないもの）を使って職員が行い、2歳児からは手ぬぐいを細長く縫ったものを自分で使い行います。

2歳までは部屋で、3歳以上は園庭で行いますが、園庭ではマラソンで身体を温めてから始めます。上半身裸になり、子どもたちの元気なかけ声が園に響きわたります。

1年間を通じ「薄着で過ごす」という目標を持ち、体調により調節していますが、冬でも園舎の中では半袖、半ズボンで過ごしています。

日々の保育の中では積み重ねが大切です。運動面では、例えば跳び箱。2歳から足を揃えて跳ぶ遊びを多く取り入れ、3歳からは天気の良い日の朝の体操が終わった後、園庭のタイヤ跳びを習慣にしています。

リラックスした様子の園児たち

滑り台の逆さ登り、雲梯、鉄棒も毎日繰り返します。鉄棒は3歳で足掛け回り、4歳で前回り、5歳で逆上がりを10月の運動会に器具運動で披露。裸足保育や高ばいも行い、遊びながら楽しく子どもの体力を付ける工夫をしています。高ばいは乳幼児の手足の筋力アップに最適な運動です。

クラスの部屋やランチルーム、廊下の雑巾掛けや移動の際の競走も筋力を鍛えることにつながります。3歳からはスイミングにも通っています。

子どもの体力向上に大切な乳幼児期、保育園でできることを職員で研修を行いながら、年間目標を立て実行に移しています。昔からの伝統を引き継ぎ、また新しい取り組みを考えていきたいと職員間で定期的に話し合いの場をもっています。

異年齢の子どもと触れ合うことも大切です。縦割り保育でリトミックを取り入れているのもその一つ。年上の子は自然と年下の子に優しく接し、小さい子は年上の子に憧れの眼差しで、お兄ちゃんお姉ちゃんのようになりたいとやる気が芽生える姿に、身体だけでなく心も成長していくのがうかがえます。

0・1・2歳は合同の朝の集いで歌をうたいリトミックをして一緒にあそぶこともあり、家庭的な温かい雰囲気の場も設けています。

雑巾がけの様子

子どもたちが心も身体も丈夫に育つことを願い、これからも一人ひとりの子どもを見守りながら保育に磨きをかけたいと思います。

（南海愛児園　Y・I）

元気な園児たちの写真を募集します

平成22年1月1日号の1面に掲載する「新年にふさわしい園児の元気な姿」にぴったりの写真を募集いたします。

例えば、園児が園庭で遊んでいる写真など。本紙編集委員において選考し、掲載させていただきます。

写真は可能な限り電子データで、末尾に記載のメールアドレスまでお送りいただきますようお願いいたします。

なお、電子データでいただけない場合は現像済みの写真でも結構です。

事務局（担当・木村）までお送り下さい。

締切…平成21年12月14日（月）

E-mail：
Kimura.yukari@osakafusyakyo.ne.jp

秋の叙勲

瑞宝単光章

寝屋川東保育園　西島幸子氏

皆様のご協力、ご指導の賜物と深く感謝

寝屋川東保育園
西島幸子氏

皆々様には益々ご清祥の御事と存じお慶び申しあげます。

この度、平成21年秋の叙勲の栄誉に際しまして御鄭重なる御祝意を賜り誠に有難く厚く御礼申しあげます。

これもひとえにご厚情をいただきました皆様方、特に大正から昭和初期の社会事業家の皆様方、大阪社会福祉協議会の故井上光氏の多大な御協力、御指導の賜物と深く感謝申しあげます。

お陰様で保育所開所より60年の年月となり、苦難の道を辿ってまいりましたが、今日の栄に浴しましたことは皆様方のお陰と存じます。

これからの社会福祉を担っていただく方には、社会事業家としての心構えを忘れることなく、毎日精進して下さいますよう切にお願いし、私の感謝の気持ちとお礼の言葉にさせていただきます。

各種表彰受賞者（順不同・敬称略）

全国社会福祉協議会
会長表彰（功労）　5名

木原美也子（橘本保育所）
上農　典子（四条畷すみれ保育園）
澤谷登詞子（泉ヶ丘保育園）
杉山　友子（南ヶ丘保育園）
森井　恵子（つぼみ保育園）

全国社会福祉協議会
会長表彰（永年勤続）　27名

今西　博嗣（くすのき保育園）
宇治佳代子（めぐみ峰保育園）
唐住　康雄（杏林福祉会）
篠原　涼枝（清和保育園）
射場ます子（マリア保育園）
川端美千代（あおぞら保育園）
松岡　啓子（三矢ゆりかご保育園）
北島　孝昭（庄内たちばな保育園）
村田貴美子（むぎの穂保育園）
澤　かおる（すいせん保育園）
横山　朋子（光善寺保育園）
矢野　豊子（来迎寺学園）
西島　智子（寝屋川東保育園）
橘　千佳（あい桂保育園）
井上　昌子（細河保育園）
橘詰　庸子（善根寺保育園）
柴田　弘子（くずは光の子保育園）
堀川百合子（第二光の峰保育園）
長村　良子（第二光の峰保育園）
松岡　浩（ゆりかご保育園）
山本　敦子（島之内保育所）
渡辺　範子（歓心寺保育園）
山田有理子（歓心寺保育園）
中谷　慰子（貝塚中央保育園）
谷口　節代（ひかり保育園）

全国保育協議会
会長表彰　11名

熊井　茂治（千里山やまて保育園）
高槻ひとみ（社会福祉法人鳳会初芝保育園）
楠本　孝子（中百舌鳥保育園）
村田貴美子（むぎの穂保育園）
西浦日佐代（ココアンジュ新家）
澤谷登詞子（泉ヶ丘保育園）
藤井　昭子（みずほ保育園）
小池みどり（下田部保育園）
松岡　浩（ゆりかご保育園）
西島　智子（寝屋川東保育園）
長村　良子（第二光の峰保育園）

※受賞者数は掲載辞退の方も含めた人数です。

「旬」

写真入りで近影届ける年賀状
歳末の地域防犯パトロールに
おでんの陣中見舞い

師走の声を聞くと気ぜわしくなる。研修会、忘年会、園の行事の準備、それに喪中の葉書が舞い込み、あっ、年賀状や。年賀状はここ数年写真入りで作っている。百聞は一見に如かず、数年会っていない人も、毎年顔入り写真を送れば、文面には見えない人間の顔やから〝あいつも薄うなったけど元気そうやな〟と思ってくれるであろうとの一念。今年40年振りに知人の寺の落慶法要に招かれたら、太った僧侶が遠くから私の顔を見て、ヨッと手を挙げた。

写真は好きで、前施設時は、身寄りの少ない児たちの写真を撮り、小アルバムを作ったり、空き部屋を暗室にし、独学で現像焼付けトリミングをしたり。保育園でも卒園記念品に子どもたちの良い表情を四ツ切りパネルにして贈り喜ばれた。

凝り出すと止まらない。六九判のプレスカメラ、写真卸商の入店カードを保持していた時期も。

今はデジカメが一番！花木やショーウインドー、道頓堀のネオンも美しいので、良く撮るが、手ブレなのか酔っているのかシャープに撮れた試し無し。

パソコンで整理したら1年の自分の行動の記録集も作れる。

さて、賀状の写真の相方であるカトレアたちがうまく中旬頃までに咲いてくれるか？彼女たちの咲き具合で、何の変哲も無い義理文面の賀状になりかねない？

中頃になると門松用の竹の切り出し・材料発注、組み込みの日程調整。最後の組み上げは天皇誕生日、園庭に鎮座する門松群は壮観。（見学OK）

その日は、前日から木工クラブのオッサンたちの昼飯・打ち上げ兼ねた忘年会の段取りにも気配り。玄関内はツリー、表には門松！日本人でんなぁ。クリスマスが近づくと副園長の指導の下、職員達が作ったリースやピー缶利用のフラワーアレンジメントが玄関を飾ります。

自治会の歳末防犯パトロールへは、地域の一員として、日頃車の出入りやスピーカーの音など、何かとご迷惑のお詫びの印に、中鍋一杯の暖かいおでんを陣中見舞いとして25年続けている。

保育納めの翌日はオッサンたちと餅つき。臼の介取りは高校頃から慣れているが、30ウスともなると、正月過ぎまで肘の筋肉痛が取れない。が、餅は旨い！特に杵つきは！がんばるぞ！（H・N）

発行所
大阪市中央区中寺1丁目1−54
大阪府社会福祉協議会
保育部会
大阪府保育協議会
TEL (06) 6762−9001
発行人
永野治男
編集人
齊藤和正